本邦女子頭髮色調

The Hair Colours of the Japanese Women

日本醫科大學解剖學教室 (主任 金子丑之助教授)

伊 藤 政 時

Ito, Masatoki

この論文の要旨は第 55 回日本解剖學會總會 (1950) で發表す。

内 容 目 次

第 1 章 緒言

第 2 章 測定部位及び測定方法

第 3 章 測定成績

第 1 節 本邦女子頭髮色調の逐年次的成績

第 1 章 緒 言

頭髮色調は人類學・解剖學・遺傳學等各方面から研究され、内外を通じて幾多先人の報告がある。本邦人頭髮色調の測定方法としては、頭髮溶液 (苛性加里溶液) の紙上滴痕について比色計を用いて測定分類する方法¹⁾も報告されているが、一般に比髮計による測定が行われている。

比髮計には Fischer の比髮計 (人工毛髪を使用す) とその後發表された Fischer u. Saller の比髮計 (自然毛髪を使用す) とがあつて、諸點に於て Fischer u. Saller の比髮計は Fischer の比髮計に優つてゐるが、Fischer u. Saller の比髮計による報告は僅かに高橋氏²⁾が邦人女子約 14,000 名についてその概要を發表しているにすぎない。これに對して Fischer の比髮計によつたものでは中山、岡本、渡邊、圓山の諸氏の報告がある。即ち中山氏³⁾は青森、秋田、岩手三縣在住の男女 740 名について調査、眞黒色 (27 號)³⁾、黒褐色 (4 號)、褐色 (5 號) に分類し眞黒色、黒色が大部分で 97.3% を占めると報告し、岡本氏⁴⁾は南九州在住男女 1,335 名について黒青色 (27 號)、黒褐色 (4 號)、赤褐色 (29 號) に分類し、渡邊氏⁵⁾は東京學生 88 名について黒色、黒褐色、褐色に分類し、とも

第 2 節 本邦女子頭髮色調の人生期別成績

第 3 節 主要色調の全人生期を通じての推移について

第 4 章 結論

文 献

に黒色 (前者によると黒青色) 最も多く、黒褐色は比較的少ないといふ、圓山氏¹⁶⁾は金澤市内男女學童 1,040 名について調査し、その色調は極めて濃い黒褐色であると報告している。以上 Fischer 比髮計による諸報告はいずれも色調の分類法が簡單で測定例數も少なくまた限られた年令にとどまつてなされている。

著者は Fischer u. Saller の比髮計を使用し測定を行つたが、例外をのぞけば本邦女子頭髮色調は大體 Fischer u. Saller 比髮計では Y³⁾ (眞黒色)、X (黒色)、W (黒褐色)、V (褐色)、U (明褐色) の間にある。しかし實際に測定すると上記色調の間には中間色調があつて、高橋氏は Y と X の中間色調を YX、X と W の中間色調を XW (以下同じ) として記載しているが、著者は XY と Y 及び X との中間色調も識別できるので XY と X の中間色を XY、XY と Y との中間色を XY とし (他の色調も同じ)、これにしたがつて新産兒期から老年期までの本邦女子頭髮色調を測定分類し以下の成績を得たので、ここに報告し諸賢の御批判と御教示を乞ふこととする。

第 2 章 被檢者及び測定方法

東京都内とその近縣居住本邦女子、生後 1 週間から 89 歳までの 7,636 名について Fischer

1) 引田: 臺灣醫誌 第 40 卷

2) 數字は Fischer 比髮計の記號

3) ローマ字は Fischer u. Saller 比髮計の記號、以下この記號にしたがい色調の名稱は省略す。

u. Saller の比髪計を用い、上述の分類法により頭髪色調を測定し、これを逐年次的並びに人生期別にまとめた。

測定部位 頭頂部毛髪の根部から2厘ないし4厘の部位について測定す。

測定方法 測定した時期は4月から11月の間、時間は9時から15時に至る間で被検者を窓の近くに背を向けて立たせ散光々線の下で測定す。

なお髪油を頭髪根部までつけているもの、コテ或はパーマメントのため変色著明なもの、白髪染をしているもの、白髪の多量にまざっているものは除外する。パーマメントは青・壯年期の女子はほとんどかけているが、通常頭髪の末端部ほど著明に変色しているがその根部はほとんど変化なく例外をのぞいて測定上差支がない。白髪のまざっているものは白髪をのぞいて測定す。

第3章 測定成績

これを逐年次的成績と人生期別成績とに分けて述べる。人生期とは生理學的根據にしたがつて區分されたもので幾多の學者により色々な區分法が試みられているが、こゝでは森・金子¹⁾の區分法にしたがうことにした。

第1節 本邦女子頭髪色調の逐年次的成績

(括弧内の數字は%を示す)

出現の極めて少ない色調をのぞいて出現率の多い色調の順に並べて記載すると次のような成績である。

生直後～7日 (計68): WV(26.47), W(17.65), XW(12.79), X(11.76), V(10.29)

1年 (計1060): X(26.60), W(25.47), V(15.28), U(6.04)

2年 (計486): W(26.34), X(24.90), V(17.70), U(9.06)

3年 (計353): W(27.42), X(19.26), V(15.86), XW(5.95), XW・U(5.38)²⁾

4年 (計284): W(28.17), X(19.37),

V(11.97), U(8.80), XW(5.28)

5年 (計88): W(31.82), X(29.55), XW(10.23), XW(9.09), V(7.95)

6年 (計168): X(33.93), W(23.81), XW(11.90), XW(6.54), XW・WV(5.36)

7年 (計182): X(47.80), W(17.03), XW(9.34), XW(8.79), WV(6.04)

8年 (計194): W(28.09), XW(24.74), X(21.65), XW(9.28)

9年 (計219): W(29.68), Y(29.22), XW(20.09), XW(9.10)

10年 (計144): X(45.83), W(22.92), XW(16.67), X・XW(4.86)

11年 (計210): W(35.71), X(19.05), XW(18.57), WV(7.14), XW(6.19)

12年 (計206): W(27.14), X(22.82), XW(22.33), WV(10.68)

13年 (計195): X(35.38), W(18.97), XW(10.26), XW(8.21), WV(7.18), XW(5.64), YX(5.13)

14年 (計319): X(58.31), XW(12.85), W(6.90), XW(5.64), YX(5.02)

15年 (計156): X(49.36), XW(17.95), W(16.67)

16年 (計127): X(40.16), W(16.54), XW(14.17), YX(13.39)

17年 (計169): X(39.64), XW(11.83), YX(9.47), W(8.89), YX・YX・WV(5.92)

18年 (計193): X(34.20), W(17.62), YX(9.32), XW(6.74), YX・XW(6.22), Y(5.70)

19年 (計53): X(37.74), XW(16.98), W(11.32), WV(9.43), YX(7.55)

20年 (計54): X(46.30), XW(14.81), W(12.96), YX・XW(5.56)

21年 (計85): X(35.29), W(25.88), XW(9.41), XW(7.06)

22年 (計95): X(49.47), W(11.53), YX・YX(8.42), XW(7.37), YX(6.32)

23年 (計149): X(53.69), W(10.74), YX(9.41), XW・YX(7.38), YX(6.04)

1) 森・金子: 解剖學雜誌8卷(昭和10年)參照

2) XW・U(5.38)はXWが5.38%及びUが5.38%であることを示す。他も同じ

24年 (計 185): X(36.76), W(16.76),
YX(10.81), YX(8.65), YX(7.57)
25年 (計 209): X(43.06), YX(10.05),
W(9.57), YX(9.09), Y(6.70), YX(5.71)
26年 (計 177): X(40.11), YX(11.86),
W(10.73), YX(7.91), Y·XW·YX(7.34)
27年 (計 161): X(47.02), W(9.32),
YX(8.07), YX·XW(7.45), YX(6.83)
28年 (計 168): X(39.28), YX(13.10),
W(11.90), XW(8.93), YX(7.14),
Y·YX(5.95)
29年 (計 138): X(36.23), YX·W(11.59),
YX(10.14), YX(8.70), Y(7.97)
30年 (計 146): X(43.15), YX(11.64),
Y(10.96), YX(8.90), YX(6.85),
XW(5.48)
31年 (計 147): X(45.58), YX·YX(10.20),
W(9.52), Y(7.48), YX(6.80)
32年 (計 100): X(37.00), W(16.00),
XW(14.00), YX(7.00), YX(6.00),
YX·WV(5.00)
33年 (計 55): X(32.55), YX·XW·W
(12.73), YX(10.91)
34年 (計 43): X(37.21), YX(16.28),
YX(11.63), W(9.30), YX·XW·XW
(6.98)
35年 (計 40): X((37.50), YX(15.00),
XW·W(10.00), YX(7.50), Y·YX·WV
(5.00)
36年 (計 39): X(35.90), YX·XW·W
(12.82), YX(10.26), Y·V(5.13)
37年 (計 33): X(39.39), W(24.24),
YX(15.15), XW·XW(6.06)
38年 (計 24): X(41.67), YX·XW·W
(12.50), YX(8.30)
39年 (計 13): X·W(23.08), Y·YX·XW
(7.69)
40年 (計 9): W(44.44), X(33.34),
YX·XW(11.11)
41年 (計 13): X(30.77), W(23.08),
XW·YX(15.38)

42年 (計 42): YX(40.48), X(14.29),
XW(9.52), YX·XW·W(7.14)
43年 (計 40): YX(30.00), W(17.50),
X·XW(12.50), WV(10.00), YX·YX(5.00)
44年 (計 22): X(31.82), W(22.73),
YX(13.64), YX·WV·XW(9.09)
45年 (計 8): XW(33.33), YX(27.78),
X(16.67), YX(11.11)
46年 (計 21): YX(33.33), XW(19.05),
YX·X(14.29)
47年 (計 11): YX·X(27.18), W(18.18),
Y·YX·XW(9.09)
48年 (計 12): YX(33.33), X(25.00),
XW(16.67)
49年 (計 17): YX(29.41), YX·X·XW
(17.65), XW(11.76), W(5.88)
50年 (計 12): X(25.00), W(16.67),
Y·YX·XW(8.33)
51年 (計 10): X(40.00), YX·XW(20.00),
Y·W(10.00)
52年 (計 18): X(44.44), YX(27.78),
Y·YX·XW·XW·W(5.56)
53年 (計 9): X(55.56), YX(33.33),
XW(11.11)
54年 (計 8): YX(37.50) X(25.00),
Y·YX·YX(12.50)
55年 (計 11): X(54.55), YX(18.18),
YX·XW·W(9.09)
56年 (計 13): X(46.15), YX(38.46),
Y·WV(7.69)
57年 (計 9): X(55.56), YX·YX·W·
WV(11.11)
58年 (計 20): Y·YX(25.00), X(15.00),
YX·W(10.00), YX·XW·WV(5.00)
59年 (計 20): X(60.00), Y(20.00),
YX·W(10.00)
60年 (計 15): X(60.00), Y·WV(13.33),
W·V(6.67)
61年 (計 11): X(63.64), Y·YX·W·WV
(9.09)
62年 (計 14): X·XW(35.71), Y(14.28),

第1表 各人生期に於ける各色調の測定例数とその百分率

人生期 \ 色調	Y	YX	YX	YX	X	XW	XW	XW	W	WV	WV
新産兒期					8 (11.76)	11 (12.79)	4 (4.65)	1 (1.47)	12 (17.65)	4 (4.65)	18 (26.47)
乳 兒 期	16 (1.51)	24 (2.26)	17 (1.60)	16 (1.51)	282 (26.60)	42 (3.96)	41 (3.87)	15 (1.42)	270 (25.47)	9 (0.85)	28 (2.64)
乳 齒 前 期	7 (0.62)	5 (0.45)	8 (0.72)	20 (1.77)	244 (21.73)	52 (4.63)	39 (3.47)	33 (2.94)	305 (27.16)	24 (2.14)	36 (3.21)
乳 齒 後 期		1 (0.23)	1 (0.23)	5 (1.14)	170 (38.81)	29 (6.62)	46 (10.51)	22 (5.02)	100 (22.83)	4 (0.91)	24 (5.48)
學 齡 前 期			3 (0.54)	4 (0.72)	172 (30.88)	45 (8.08)	116 (20.83)	24 (4.31)	152 (27.29)	6 (1.08)	18 (3.23)
學 齡 後 期			6 (1.45)	4 (0.96)	37 (20.92)	13 (3.13)	85 (20.43)	11 (2.64)	132 (31.73)	12 (2.88)	37 (8.89)
移行前期	2 (0.39)	8 (1.56)	26 (5.06)	10 (1.93)	255 (49.61)	18 (3.50)	61 (11.87)	34 (6.61)	59 (11.49)	10 (1.93)	21 (4.09)
移行後期	8 (1.77)	23 (5.09)	33 (7.30)	18 (3.92)	195 (43.14)	4 (0.89)	66 (14.60)	13 (2.88)	62 (13.72)	2 (0.44)	17 (3.76)
青 年 期	12 (3.12)	19 (4.94)	27 (7.01)	14 (3.64)	141 (36.62)	11 (2.86)	38 (9.87)	14 (3.64)	69 (17.92)	4 (1.02)	17 (4.42)
第一成熟期	99 (6.22)	150 (9.52)	131 (8.32)	127 (8.06)	675 (42.86)	49 (3.11)	83 (5.27)	34 (2.16)	167 (10.60)	5 (0.32)	24 (1.52)
第二成熟期	12 (3.26)	31 (8.42)	31 (8.42)	25 (6.79)	133 (36.14)	11 (2.99)	42 (11.41)	3 (0.82)	57 (15.49)	7 (1.90)	9 (2.45)
第三成熟期	8 (3.59)	5 (2.24)	57 (25.56)	21 (9.42)	53 (23.77)	12 (5.38)	30 (13.45)	5 (2.24)	24 (10.76)	1 (0.45)	7 (3.14)
第四成熟期	15 (11.20)	3 (2.24)	12 (8.96)	18 (13.43)	55 (41.04)	2 (1.49)	3 (2.24)		9 (6.72)		6 (4.48)
第一老年期	29 (17.90)	1 (0.62)	13 (8.02)	2 (1.23)	72 (44.44)	6 (3.70)	18 (11.11)	13 (1.85)	17 (10.49)		1 (0.62)
第二老年期	35 (23.97)		3 (2.05)	3 (2.05)	79 (54.11)		11 (7.53)		15 (10.27)		
第三老年期	2 (12.50)				12 (75.00)				2 (12.50)		

註： 上段の數字は測定例数 下段の數字（括弧内）は%を示す

YX・W(7.14)
 63年（計 12）： X(41.58), XW(33.33),
 YX・XW・W(8.33)
 64年（計 18）： X(55.56), Y(16.67),
 YX・XW(11.11), XW(5.56)
 65年（計 14）： X(57.14), W(14.29),
 Y・YX・YX・XW(7.14)
 66年（計 13）： X(38.46), W(30.77),
 Y(15.38), YX・XW(7.69)
 67年（計 20）： X(60.00), YX(20.00),
 XW(10.00), YX・WV(5.00)
 68年（計 14）： X(35.71), Y(28.57),
 W(21.42), YX・XW(7.14)
 69年（計 17）： X(41.18), W(23.53),
 Y(17.65), XW(11.76), XW(5.88)
 70年（計 29）： X(41.38), Y(31.03),

YX・XW・XW(6.97), YX・W(3.45)
 71年（計 11）： Y(45.45), X(27.27),
 XW・XW・W(9.09)
 72年（計 19）： X(52.63), Y(21.05),
 YX・W(10.53)
 73年（計 21）： X(76.19), Y(19.05),
 W(4.76)
 74年（計 21）： X(61.90), Y(19.05),
 XW・W(9.52)
 75年（計 23）： X(47.83), Y(30.43),
 W(17.39), XW(4.35)
 76年（計 21）： X(42.86), Y・XW(19.05),
 W(14.25), YX(4.76)
 77年（計 13）： Y(46.15), X(23.08),
 YX(15.38), XW・W(7.69)
 78年（計 7）： X(71.63), Y(28.57)

WV	V	VU	VU	VU	U	UT	UT	UT	T	TS	S	R	Q	計
3 (4.41)	7 (10.29)													68
14 (1.32)	162 (15.28)	3 (0.28)	9 (0.85)	6 (0.57)	64 (6.04)		9 (0.85)	1 (0.09)	25 (2.36)	1 (0.09)	13 (1.23)	2 (0.19)	16 (1.51)	1060
18 (1.60)	176 (15.67)	2 (0.18)	3 (0.27)	8 (0.72)	88 (7.84)		1 (0.09)		24 (2.14)	14 (1.25)	12 (1.07)	3 (0.27)	1 (0.09)	1123
7 (1.60)	20 (4.57)	2 (0.47)	1 (0.23)			1 (0.23)	1 (0.23)		4 (0.97)					438
6 (1.08)	7 (1.26)	1 (0.18)	2 (0.36)		1 (0.18)									557
4 (0.96)	11 (2.64)	1 (0.24)	8 (1.92)	1 (0.24)	3 (0.72)		1 (0.24)							416
2 (0.39)	3 (0.58)		1 (0.19)		4 (0.78)									514
4 (0.89)	6 (1.33)		1 (0.22)											452
6 (1.56)	9 (2.34)	1 (0.26)	2 (0.52)	1 (0.26)										385
2 (0.15)	23 (1.46)	1 (0.06)	2 (0.15)		3 (0.19)									1575
	7 (1.90)													368
														223
	1 (0.75)													134
														162
														146
														16
總 計														7637

79年 (計 12): X(50.00), XW・W(16.67),
Y・YX(8.33)

80年 (計 8): X(62.50), Y(37.50)

81年: X 1名, 82年: X 5名, 83年: X 3名
Y及びW各1名

85年: X 2名及びW 1名, 86年: X 2名,

89年: Y 1名

以上を要約すると、生後1週間までは WV, W, XW, X, V の順であるが各色調の出現率は近接した数値を示している。1年から4年までは1年のみWが1位を占めているが他はXが1位を占め、いずれもX, W, Vの色調が大多数を占めている。また少数ではあるが T, S, Q 等の色調もみえるが、これは年長者には全くみえない (第1表参照)。

5年から 21 年までは X, XW, W の色調が多

くなり3位までを占めている。例外的に 17 年にWの代りに YX, 18年にXWの代りに YXが3位となつている。13年からはXとYの中間色調が増加し、ことに 23 年から著明に増加している。Yもまた 17 年, 18年にやゝ多くあらわれ 19 年, 20 年には出現しないが (この年齢は測定例数もやゝ少ない) 21 年から再びあらわれて両色調とも高年になる間つねに上位を占め、ことに 42 年, 43 年, 46 年, 47 年, 48 年, 49 年, 54 年, 58 年, 71 年, 77 年にはそれぞれ1位を占めている。又 37 年から 41 年まではWが増加し、ことに 40 年では1位となつていることが注目される。

第2節 本邦女子頭髪色調の人生期別成績

上記の逐年次の成績を各人生期別にまとめ (第1表参照)、各人生期について主要色調のあ

られ方をみると次のような成績である。

- i. 新産兒期 } 前述の通り (第1, 2圖)。
 ii. 乳兒期 }

第 1 圖

第 2 圖

iii. 乳齒前期 W, X, V, U の順に出現している。これに次で X と W の中間色調が多いが、その数値は低い¹⁾ (第3圖)。

第 3 圖

1) 理論的にはこれらの中間色調も F.S. 比髪計記號色調と略均等出現率を示すべきであるこれについては後記する。

iv. 乳齒後期 X が 1 位で、W 及び X と W の中間色調が之に次ぎ乳齒前期よりやゝ増加している (第4圖)。

第 4 圖

v. 學齡前期 X, W, XW, の順であるが W が増加し X に近い數値を示す。又 XW も増加している (第5圖)。

第 5 圖

vi. 學齡後期 W, X, XW, WV の順で X と XW の數値は極めて近接している。WV もやゝ増加している (第6圖)。

第 6 圖

vii. 移行前期 Xが 50% 近くを占め他の色調は少ない。XW, W, XW に次で XY が増加している (第7圖)。

第 7 圖

viii. 移行後期 移行前期と同じく Xが他の色調よりはるかに多く 43% を示し、それに次で XW, W の順に現われ、その後に YX, YX, YX 等 X より濃色の色調がつづく (第8圖)。

第 8 圖

ix. 青年期 Xは移行後期に比してやや減す

第 9 圖

るがなお 1 位を占め、Wが増加して 2 位となり XW, YX, YX とこれに次ぐ (第9圖)。

x. 第1成熟期 Xはほぼ移行後期と同じ數値を示し他の色調は少ない。Xに次で W, YX, YX, Y の順にあらわれ Y 及び Y と X の中間の色調が増加している (第10圖)。

第 10 圖

xi. 第2成熟期 X, W, YX 及び YX, YX の順ではほぼ青年期と同じであるが、YX が増加して YX と同じ數値を示している (第11圖)。

第 11 圖

第 12 圖

xii. 第3成熟期 YX, X, W, XW, YX の順で YX が1位を占めているが, YX と X の数値は近接している (第12圖)。

xiii. 第4成熟期 X は 41 % で他の色調よりはるかに多く, これに次いで YX, Y, YX 等濃色の色調が増加している (第13圖)。

xiv. 第1老年期 X に次いで Y が増加し第2位となつている。XW, W, YX がこれに次ぎ XW, W が第4成熟期に比して増加している (第14圖)。

第13圖

第14圖

xv. 第2老年期 X, Y, W, XW の順で, 第1老年期とはほぼ同じ傾向を示すが中間色調は減じて, X, Y, W が増加する (第15圖)。

xvi. 第3老年期 この人生期では例数も少なく, また白髪多く, それに頭髮が一般にうすくなつているため Y, X, W の色調を識別できたのみである (第16圖)。

第15圖

第16圖

第3節 主要色調の全人生期を通じての推移について

i. Y 新産兒期には1例もみない。乳兒期,

乳齒前期に少數出現し乳齒後期から學令後期まではあらわれないが移行前期から再び出現しその後次第に増加し¹⁾, ことに第4成熟期, 第1老年期, 第2老年期に著明である (第17圖1)。

第17圖

ii. XとYとの中間色調 YX, YX, YX ともに同じ傾向を示す。學令後期までは YX, YX, YX とも非常に少ないが, 移行前期から YX が増加し, 移行後期には

YX, YX が増加し, 第1成熟期, 第2成熟期では3色調はほぼ同じ数値を示す。YX は第2成熟期から漸減し, YX は第3成熟期, YX は第4成熟期を頂點として漸減する (第18圖)。

第18圖

iii. X 全人生期を通じて高い数値を示すが, 新産兒期, 學令後期, 第3成熟期では他の人生期に比してやや出現率が低い (第17圖)。

1) 第2成熟期, 第3成熟期に於てはやや減少する。

iv. X と W との中間色調 XWは新産兒期に最も多く乳兒期に一旦減少し、その後學令後期まで次第に増加し、それからは減少するが第1老年期まで出現する。XWは3色調のうち最も高い數値を示し、ことに學令前期・學令後期に最も出現率高く後者に於てはXとほぼ同じ數値を示し、高年にいたるまで出現している(第1成熟期にはやや減少する)。

XWは大體XWと同じ出現率を示すが、移行前期・移行後期・青年期をのぞいてXWよりやや出現率が少ない(第19圖)。

第 19 圖

v. W Wは新産兒期から出現率高く、ことに學令後期では全色調のうち最も多くあらわれるが移行前期から減少し高年に至るまで大體近接した數値を示す(第20圖)。

第 20 圖

vi. W と V との中間色調 新産兒期ではWVは全色調のうち最高の數値を示しているが乳兒期から減少し、學令後期にやや増加するのみで

その出現率は低い。WV・WV もやゝ新産兒期に多いのみで、全人生期を通じてその出現率は極めて低い(第21圖)。

第 21 圖

vii. V 新産兒期・乳兒期・乳齒前期に多い。ことに後2者では最も多く出現するが乳齒後期からは減少し、以後その出現率は極めて低く、第4成熟期に1例をみただけで第3成熟期と第1老年期以後は出現しない(第20圖)。

viii. その他の色調 T・TS・S・R・Q等の色調は乳兒期・乳齒前期に少數ながら出現するが他の人生期には全くみない。その他の色調は出現率が極めて少ないので省略する。

第4章 結 論

著者は Fischer u. Saller の比髮計を使用し東京都内及び近縣居住本邦女子生直後から 89 年にいたる 7,636 名について頭髮色調を測定しこれを逐年次的並に人生期別にまとめて考察し次の結果を得た。

1. Fischer u. Saller の比髮計の記號のみによつて本邦女子頭髮色調を分類するのは不充分であつて、著者は Fischer u. Saller の比髮計の各色調の間にさらに3階級の中間色調を分類、それぞれ記號を附しこれにしたがつて測定す(各項参照)。

2. 著者の測定した範圍では少數の例外をのぞいて全色調中Xが各年令を通じて最も出現率が高く、このことからしてXは本邦女子頭髮色調の標準色調であるということが出来る。

3. 頭髮色調は年令とともに變化するが新産

兒期から移行前期までが特に著明である。

4. 生直後と幼時に於てはXからYまでの濃色の色調は少なく、XからWまでの淡色の色調が多い。移行前期からY・X及びYとXの中間色調は増加し、W及びWとXの中間色調は減少する。即ちいわゆる青春期から濃色の色調が多くなる¹⁾。

5. 成熟期・老年期では濃色のY及びYとXの中間色調が多く、W及びW以下の淡色の色調は少ない。また特にいわゆる更年期に於ける色調の変化はみられなかつた。

擧筆するに臨み御懇切な御指導と御校閲をたまわつた 恩師金子教授に 深甚の感謝をさしげる。

(本研究は一部文部省科学研究費によつた)

文 献

- (1) 内田：人類學雜誌 第59巻
- (2) 引田：臺灣醫學會雜誌 第40巻
- (3) 岡本：解剖學雜誌 第1巻
- (4) 中山：人類學雜誌 第48巻

- (5) 渡邊：東京醫學會雜誌 第28巻
- (6) 堀井・田幡：人類學雜誌 第45巻
- (7) 高橋：解剖學雜誌 第20巻
- (8) 吉野：人類學雜誌 第56巻
- (9) 渡邊：人類學雜誌 第59巻
- (10) 久保：朝鮮醫學會雜誌 第16號
- (11) 森：臺北帝大記念講演集
- (12) 小山：北越醫學會雜誌 第43巻
- (13) 小山：人類學(總論)
- (14) 松村・大島：人類及び人種(岩波講座生物學)
- (15) 金關：日本人の人種學(岩波講座生物學)
- (16) 圓山：金澤大學醫學部解剖學教室業績 第38冊
- (17) Eugen Fischer u. Karl Saller: Anthropologischer Anzeiger V, 1928
- (18) Eugen Fischer: Anthropologischer Anzeiger 1, 1924
- (19) Fischer, E.: Anthropol. Korrbll. 1909
- (20) Fischer, E.: Die Rehobother Bastards 1913
- (21) R. Martin: Lehrbuch d. Anthropologie 2. Auflage 1928
- (22) 森・金子：解剖學雜誌 第8巻

- 1) 小山氏の報告によると小兒期から青春期にかけて毛髮の色素顆粒が増加し青春期では色素の沈着が最も著名であると。